

●カールハインツ・シュトックハウゼン (1928~2007)

『クラング—1日の24時間』より 13時間目「宇宙の脈動」

電子音楽のための (2006~07)

『クラング(音) —1日の24時間』の13時間目のタイトルは「宇宙の脈動」(電子音楽)である。

24層のメロディーによるループは、それぞれ1~24個の異なるピッチを持ち、24のテンポと約7オクターヴにわたる24の音域で回転する。240~1.17のそれぞれのテンポは、パルス8個分に対応する。つまり第24層のテンポ240は、1分間あたり1920個 (=240×8) のパルス、第1層のテンポは、1分間あたり9.36個 (=1.17×8) のパルスが演奏されることを意味する。

これらのループはだんだんと、低音域から高音域へ、そして最も遅いテンポから最速のテンポのものとなって積み重なっていき、そして同じ順序で順次、演奏を終える。

手動操作による、テンポの加速・減速や、もとのメロディーの一部分の上下のグリッサンドによって、それぞれのループが生き生きとしたものになる。この操作はカティンカ・パスヴェーアがスコアに基づいて行った(フォームスキーム [図版] 参照)。

私にとって全く新しかったことは、空間処理の新技法である。24層のループの各セクションは、それぞれ異なる、8つのスピーカー間の音像移動を伴うため、241パターンの音像移動が計画されることになった。これは技術的に大変そうに感じられるだろう——実際にそうであった。

私は初めて、24層のサウンド・ループを重ね合わせることに挑戦した。これはあたかも、24個の衛星、あるいは24個の惑星の回転を作曲するかのようであった(例えば土星の周りには48個の衛星が回っている)。

このことを実現するために協力してくれた、音響芸術実験スタジオのヨアヒム・ハースとグレゴリオ・カルマンに感謝したい。

ループ作成とそのテンポの同期は、私のコラボレーターであるアントニオ・ペレス・アベリヤンによってリアライズされた。

全ての音が聴き取れるのかどうかは、私はわからない。しかしそれは、8チャンネルによる上演をどれだけ体験するかにかかっている。いずれにせよ、この試みはとてもエキサイティングだ!

「宇宙の脈動」はディッソナンツエ(ローマ)とその芸術監督であるイタリア演奏会財団アンジェリカのマッシモ・シモニーニによる委嘱作品である。2007年5月7日、ローマの音楽公園ホール(シノーポリホール)によって世界初演された。

[カールハインツ・シュトックハウゼン/松平敬訳]

初演：2007年5月7日 パルコ・デッラ・ムジカ音楽堂 シノーポリホール(ローマ)

カールハインツ・シュトックハウゼン(エレクトロニクス)

委嘱：ディッソナンツエ(ローマ)、マッシモ・シモニーニ(イタリア演奏会財団アンジェリカ)

[図版]

